

フォト部門 審査員総評

今年もフォトコンテストへ多数の応募作品が寄せられ、大変嬉しく思いました。皆さんの努力の成果を審査しながら、感心させられ楽しませてもらい感謝しております。中でもグランプリ、準グランプリに選出しました3作品は抜きん出た力作でした。

ただ気になったのは、これまで毎回、選定場所を増やしてきたにも関わらず、取り上げられているのが、比較的撮影しやすく、一定レベルの作品に仕上げしやすい場所あるいは物件に偏りがちであることです。しかも似た情景の多いことです。一歩踏み出してあなたの眼になかった北海道遺産の良さを見つけ出し、見る人を感動させる努力をして欲しいと感じました。

また今回は今までになくスマホ撮影の出品作が目につきました。特に同じ場所でほとんど変わらない絵柄が20枚ほど出品されていたのには驚きました。自分で選びとったカットを出すべきだと思います。セレクトする目も大切ですから。今後もスマホ作品の増加が予想されますので配慮下さいますよう、よろしく願いいたします。

フォトグラファー 岸本日出雄氏



準グランプリ

mikuni no aki

十勝三股の樹海
撮影 / 三国峠 (2021.10)

平田 和治 様

天気予報とにらめっこして雨上がりの三国峠へ。
紅葉のピークを朝日が照らし、雲海も絶妙な位置にいてくれました。

【講評】

三国峠から見る樹海はカメラ愛好者に人気のスポットの一つです。同じようなカットのある中で、こちらは絶好のシャッターチャンスをものにしてよかったですと思います。圧倒的な迫力の樹海のほんの一部が朝日を受けて浮かび上がっているのもいいですし、近代建築の象徴的な存在としての松見大橋も主張しすぎず映り込ませた構成もなかなか。ドラマチックな作品になりました。



準グランプリ

孤高

野付半島と打瀬舟
撮影 / 野付半島 トドワラ (2021.2)

江崎 絹枝 様

トドワラの木々は、年々減っていき無くなっていく貴重な半島です。
撮影時にあったこの樹は、今は朽ち果て存在せず写真の記録する力を噛み締めています。

【講評】

傍らに輝きを放ち沈みゆく太陽を従えて、たった一本、葉もなく頼りなげでありながら、しっかりと立っている樹。やっぱり絵になりますよね。真っ赤に染められた雪原が見事で、冬の北海道らしい凄みのある写真になりました。手前に見える幾筋かの影も中央の黒く映った部分もバランスよくおさめられており構図の取り方も洗練されています。



北海道遺産フォト& 短歌チャレンジ 2024

テーマ：次の世代へと引き継ぎたい北海道遺産



フォト部門



グランプリ

秘話の地

積丹半島と神威岬 撮影 / 神威岬 (2022.8)

林 繁造 様

春と秋にある神威岩と太陽のコラボ「蠟燭」の撮影準備中、
思いもよらぬ「天使の梯子」が空一杯に広がるドラマチックなシーンに遭遇。
この地に伝承される秘話を思い浮かべながら撮影した。

【講評】

大胆でかつほんわかと柔らかい味もある光芒と暗い雲の割れ間に残る黄金色が、この作品の見どころ。同じ場所に何度通っても納得のいく光景に出会えない時もありますが、今回はまさにこれだという一瞬を捉えることができたのですね。
運だけではなく、それを見極める感性も必要です。神威岩の上向きを感じさせる形も生きています。



風雪に耐え

札幌軟石 撮影 / 札幌市資料館 (2024.1)

江崎 隆雄 様

長年風雪に耐え続けた竹まの資料館は私の一番好きな建築物です。

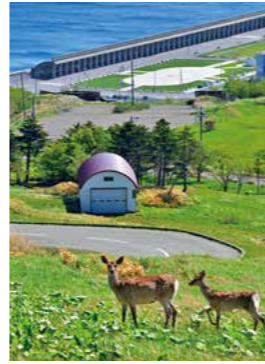


激走

北海道の馬文化 撮影 / 音更町 (2021.1)

坂口 哲裕 様

冬の風物詩となっている『馬追い運動』大きな馬たちが雪けむりをあげながら駆けてくる迫力は圧巻です。



ドームを見下ろす場所で

稚内港北防波堤ドーム 撮影 / 稚内公園 (2023.5)

上杉 裕昭 様

稚内公園から見た防波堤ドームです。春の優しい日差しの中を歩いている鹿が印象的でした。



春の西日に映える石狩川

石狩川 撮影 / 石狩市浜町 (2020.4)

上村 修司 様

大雪山系石狩岳の西斜面に源を発し、22の市町村を通過し268kmを旅して来た石狩川、その長かった旅も残すところ2km余り。未だ肌寒い春の西日を浴びながら、ゆったりとした流れて旅の最後を楽しんでいました。



清くこんこんと

京極のふきだし湧水 撮影 / 京極町 (2024.8)

前川 忍 様

水蒸気で霞んでいるのが幻想的でした。



朽ちてもなを

旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群 撮影 / 上士幌町字ぬかびら源泉郷 (2023.10)

津山 みづえ 様

糠平湖に架かるタウシュベツ橋梁。1939年に開通後ダム建設により湖に沈むことになったが、水位の変化で見えたり隠れたりすることから“幻の橋”とも言われている。80年以上経って老体となった今でも、その朽ちた姿は私たちの心に感動を与えてくれる。いつまでも残っていてほしい宝物です。



湿原の朝

雨竜沼湿原 撮影 / 雨竜沼湿原 (2023.6)

渡邊 由桂 様

湿原の草におりる朝露を足元に感じながら歩いた、木道のある景色。



The Garden in the City

札幌軟石 撮影 / 札幌市 (2024.6)

日野 透 様

札幌資料館の札幌軟石の重厚な建物と、隣接する大通公園のサンクガーデンの薔薇を写し込みました。サンクガーデンは200万都市の札幌の中心に位置する日本でも種な美しいガーデンだと思います。常に手入れが行き届いており、黒子の庭師さんのご努力が伺える。緑の下の力持ちがあって成り立つ花園なんです。この景観は資料館の重厚な趣きがあってはじめて成り立つ薔薇との華やかなハーモニーだと思います。Who could ask for more! (誰がこれ以上望みましょう!)



野付半島の夕景

野付半島と打瀬舟 撮影 / 野付半島 (2024.7)

釜澤 まつみ 様

初めて訪れた夏の野付半島はエゾカンゾウの群生が満開のタイミング。夕日に照らされたエゾカンゾウを撮影していると、突然カサガサという音。エゾシカが突然現れ花を食べ始めました。人は花を愛で、動物は花を喰む姿を見ながら、美しい夕景が撮影できました。



巨大氷塊に耐え抜いて

旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群 撮影 / 糠平湖タウシュベツ川橋梁 (2020.2)

畑端 憲行 様

季節により、糠平湖に浮き沈みする幻の橋が巨大な氷塊を持ち上げる情景に感動。



躍動

摩周湖 撮影 / 摩周湖第3展望台 (2024.6)

hokkaido_photonao 様

摩周湖に霧が滝のように流れ込み、朝日を浴びて生き物のように動く様子は圧巻でした。



海原に続く光の道

積丹半島と神威岬 撮影 / 余市町 えびす岩と大黒岩 (2024.9)

michi312ant 様

海辺に降りて近くで撮ってみました。海面に当たる陽の光が眩しく神々しく感じられました。この場所から観る日の出が情景的な印象深いものになりました。夜明け前のブルーアワーの空から始まり、日の昇る時間までとても美しい光景でした。また違った季節にも訪れてみたいと思います。



流水のまち

流水とガリンコ号 撮影 / 紋別市 (2024.2)

nogu_1022 様

ガリンコ号2。3は新造船だけど、実は2の方がお気に入り。だってフォルムとボディカラーが素敵♡



昔も今も、陽は昇る

上ノ国の中世の館 撮影 / 上ノ国町 夷王山神社 (2024.8)

now_forest 様

真夏日の朝、昇る太陽と鳥居が重なる瞬間を撮影。後世に語り継いでいきたい絶景です。



春の龍雲閣

静内二十間道路の桜並木 撮影 / 新ひだか町 (2022.5)

chi_cchia 様

龍雲閣は私の生まれ育った町にある二十間道路桜並木の奥に御牧牧場の貴賓舎として建てられました。7kmの桜並木を通った先でこの写真のように少し離れた場所から桜と一緒に見てもらいたいです。

グランプリ

私からするプロポーズ上の句を
読まずに競う歌留多仕込みの

遠藤雄介様

(題材／下の句かるた)

【作者コメント】

以前、競技かるたを趣味にしていたとき、北海道出身で女性のかかるた競技者と仲良くなり、その方を通じて下の句かるたを知りました。彼女は（下の句かるたではない）別のかかるた競技者の男性と結婚されましたが、逆プロポーズだったらいいです。ああ、きっと彼女には普通のかかるたはじれなかったんだらうな、等と考えていると面白く、歌にしてみました。

【講評】

下の句かるたとプロポーズを組み合わせる発想が良い。お題を下の句に持ってくるのは手練れのつくり方。



歌人 山田 航氏

短歌部門 審査員総評

今回北海道遺産にまつわる短歌をたくさん読ませていただき、優れた作品と感じたものはいずれも、観光客の視点の内側に収まっていないものでした。北海道遺産や風景に対して、自分の日常と無関係な刺激と捉えない。自分の生きている世界の中の一部として捉え、真摯な対話を探る。そういう傾向のある作品を積極的に評価しようと思いました。

私は久保田万太郎という俳人の、東京の失われゆく下町情緒を描いた作品がとても好きなのですが、万太郎は別に下町を観光資源にしようと思ってそういう作品を書いたわけではありません。シンプルに大好きな風景があって、それを言葉の中に封じ込めたいと願っているうちに、結果として下町情緒に観光価値が付加されるようになったというだけのことです。このたびの北海道遺産の短歌たちも、その風景へのひたむきな愛を感じさせるものをまず選びました。

観光がどうだというのは後からついてくるものにすぎません。短歌というのは最もシンプルな会話劇であり、そしてときに人間以外のものとの会話が描かれることもある。そう考えると、短歌は結構面白いし、簡単なものだと思いますか。

準グランプリ

たくさんの恋をしました小清水の
キスゲが風にゆれております

中村哲様

(題材／ワッカ／小清水原生花園)

その青に吸い込まれそうになりながら
見上げた空もまた違う青

松本俊彦様

(題材／摩周湖)

【作者コメント】

今年の6月に知床から小清水にかけて旅行しました。この地域は学生時代から（もう50年以上前になります）ずっと行きたいと思っていたところです。期待に反せずどちらもすばらしい所でしたが、小清水の丘からオホーツクの海を眺めていると、過ぎ去った昔のこと、通り過ぎたたくさんの人のことが胸をよぎり、風にゆれるエゾキスゲがさよなら、さよならと手を振っているような気がして自然と口をついて出てきたのがこの歌です。

【講評】

何を入れてもいいはずの固有名詞の部分が「小清水のキスゲ」で完成していて、安定をみせている。しらべがいい。

【作者コメント】

摩周湖には、もう三十年以上に前に新婚旅行で行きました。北海道の各地を巡ったのですが摩周湖の青さが今でも最も印象に残っています。「青」には違いないのですが、何とも違う「青」でした。見上げるといつもの空。それもまた「青」なのだけれど、それは見慣れた「青」。だからこそ、摩周湖の「青」はいつまでも記憶に残る「青」でした。

【講評】

雄大なイメージが鮮やかに広がっている。リフレインを用いながらそれぞれの「青」が違う色に見えてくるのが上手い。

線路にはヘッドライトがホームには
ランプが灯す小樽の雪夜

山邊菊代様 (題材／小樽の鉄道遺産)

【作者コメント】
初めて小樽駅に行ったときは真冬で、
とても美しく感動しました。

ジャズ、ソウル？ ヒップホップか R & B？
石狩川に鮭踊りたる

松下弘美様 (題材／石狩川)

【作者コメント】
石狩川を遡る鮭の迫力には圧倒されました。

函館の始発電車の軋り音
坂の下より厨にとどく

山本明様 (題材／函館西部地区の街並み)

【作者コメント】
十字街の電車を見下ろしているときに詠みました

トドワラのシマエビ漁の打瀬舟
野付の霧にかすむ舟影

松田なごみ様 (題材／野付半島と打瀬舟)

【作者コメント】
砂嘴に囲まれた湾に浮かぶ帆掛け舟は
野付の風物詩として知られている。

舳先より二手に裂ける流水よ
流星群をわれら率いる

麻倉遥様 (題材／流水とガリンコ号)

【作者コメント】
オホーツクブルーの海と流水に、
宇宙の旅を想いました。

円柱を数えてドームの先へ出る
サハリンの風どこかに受けて

森山高史様 (題材／稚内港北防波堤ドーム)

【作者コメント】
稚内を旅したときの経験です

まだ耳にアイヌの歌のやわらかさ
神居古潭に鈴の音響く

本澤さえ子様 (題材／アイヌ口承文芸)

【作者コメント】
学生時代、旭川でアイヌの方に歌を歌って頂く
機会があり、いまだに耳に残っています。
年配の女性の優しい声でした。

夫とゆくガンガン寺の鐘の音の
祈りのはじめ祈りのをはり

外丸幸子様 (題材／函館西部地区の街並み)

【作者コメント】
夫と北海道に行ったときに美しい教会の
雰囲気と北海道の広大な自然のイメージがとても
神々しかったです。

ゆつくりと曲がる市電に身を任せ
ハローワークに通う七月

mokume_88様 (題材／路面電車)

【作者コメント】
普段は地下鉄で移動することが多く、私にとって路面電車は
「ハローワークに通う時に乗るもの」です。路面電車に乗っていると、
大きく曲がる時には運転手さんがアナウンスをしてくれます。
気遣いと優しさを感じながら、この先の不安と希望を抱えて、
ハローワークに通っている際の景を詠みました。

冷房のない市電から札幌の
秘める白さを想う8月

真朱様 (題材／路面電車)

【作者コメント】
今年の夏に札幌を旅行して初めて市電に乗り、
冷房のない車両に驚きつつ、白い雪の季節のほうが
長いこの街に想いを馳せて詠みました。

過ぎてゆく時代を知ってメダリオン、
ただ来る人と去る人がいる

河岸 景都様 (題材／開拓使時代の洋風建築)

【作者コメント】
以前清華亭を訪れた際に見た、白い天井飾りが強く、
印象に残っています。時代が変わりゆく中で変わらずに
あるものの偉大さや寂しさ、美しさに心を向けました。

あの青を越せずにいるよ君の目に
スパンコールの水面が揺らぐ

wakkochan25様 (題材／積丹半島と神威岬)

【作者コメント】
きらつ、きらつと弾むような輝きと、
空まで続く積丹ブルーのグラデーションが
忘れられません。

らしさってあればあるほどいいよねと
語る君と食べるマトン

wakkochan25様 (題材／ジンギスカン)

【作者コメント】
羊肉らしいコクを味わえるマトン。
これからの食卓も、ジンギスカン鍋のように、
まあるく盛り上がりそうですように。

霧雨の中でカヌーは点々と
傘傾ぐごと川面を滑る

fumi_acfy様 (題材／天塩川)

【作者コメント】
天塩川について詠みました

はつなつのカムイミントラ歩きのち
友が待ちたる見本林へと

fuso_aeroace様 (題材／三浦綾子記念文学館と外国樹種見本林)

【作者コメント】
6年前に三浦綾子作品に魅了され、定期的に旭川を訪れるようになり
ました。山歩きを趣味としていて、旭川を訪れる度に遠く見かける
大雪山の勇姿に惹かれ、いつか歩いてみたいと思っていて、ようやく
今年にその念願を果たすことが出来ました。
その時のことを詠んだ歌です。